■新しい重点施策の考え方（市民検討会からの提案）

参考資料3
（平成24年度市民検討会）

現行の重点施策	新たな重点施策の設定にあたっての主な視点（課題）	新しい重点施策（案）
多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てます。	・「多摩川、湧水、崖線、浅間山」以外にも自然資源がある。 ・府中市の自然は、景観資源の１つとしても位置付けられる。 ・「水と緑のネットワーク」というキーワードは重要。ただし、このキーワードの意味、理解について確認しておく必要がある。 ・市として、「生物多様性の保全」に向けた取り組みを位置づける必要がある。今後、府中市としての生物多様性地域戦略を策定するための本計画での位置づけが必要。 ・生物多様性については、重要であり、別項目として取り上げて良いのではないか。	「水と緑のネットワーク」を形成し、自然を守り、育てます。 生物多様性の保全に向けた行動を推進し、人と自然が共生したまちをつくります。
府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全します。	・歴史的な景観が多く残っている事が、府中市の特色である。	府中市のまちを特色づける、歴史的景観を保全します。
歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進めます。	・ＣＯ２を減らすために自転車を乗るというのと、歩行者の安全という観点と２つの視点が必要。 ・整備されている場所もあれば、されていない場所もあり、市全体としての整備が必要。 ・整備されていても、実際の利用において自転車、歩行者が入り混じっていている事が問題。 ・利用者のマナーやモラルの問題、安全対策を含めて考える必要がある。	快適に安全に歩け、自転車に乗りやすいまちをつくります。
ダイオキシン類など、有害化学物質対策を推進します。	・放射性物質の拡散など、これまでになかった新たな問題が発生している。 ・土壌や地下水などの汚染など、これまでにもあった有害化学物質についても対策を行う必要がある。 ・放射性物質については、市内において問題が顕著化している訳ではないが、市民が心配している状況にあるのは確かである。 ・放射性物質の市民の考え方や知識を身に着けておくという事が必要であり、重要である。	放射性物質を含む有害化学物質について対応策を推進し、安心して市民が暮らせるまちをつくります
10 年間でごみの 50 パーセント削減を目指します。	・ここだけ数値目標が入っているが、数値の根拠、管理について不明な状況となっている。 ・ごみ問題は絶対にやっていかなければならない課題。	市民一人ひとりが、３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、ごみの少ないまちをつくります。
自然エネルギーの利用や省エネルギーを推進し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。	・太陽光発電、照明のＬＥＤ化など、公共施設や住宅、事業所に設置を普及するための仕組みづくりが必要。 ・策定済みの府中市地球温暖化対策地域推進計画と整合を図るとともに、エネルギー消費量や、温室効果ガス排出量の経年変化など、数値の捉え方を含めて管理をしていく事が必要。	自然エネルギーの利用や省エネルギーを推進し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
農地を保全し、農業と調和のとれたまちづくりを進めます。	・農地が減少している状況で、今のうちに農地を守るための対策を講じる必要があるが、個人所有の土地の問題でもあるため現実的な対策が難しい。 ・ヒートアイランド対策、防災、避難場所といった農地の持つ様々な機能、価値についてどう考えるかという視点が必要。	防災、ヒートアイランド対策等の多面的機能を持つ農地を残していきます。
校庭の芝生化（草地化）などを進めるとともに、学校のエコスクール化 100 パーセントを目指します。	・市立の学校であっても、市の方針が、教育委員会、各学校の実際の実践にはつながっていかない。 ・芝生化だけではなく、エネルギー対策や、環境教育、環境学習の在り方までを含めてエコスクールとしての整備を行っていく必要がある。	学校をエコスクール化するとともに、環境教育・学習を推進します。
すべての市民が自然とふれあい、環境学習に取り組む仕組をつくります。	・市民の環境学習への意欲を高めることが必要。 ・府中市環境保全活動センターを活用して、市民や団体、事業者、行政の横のつながり、連携を強化し、様々な世代、主体が、様々な環境学習に参加できる仕組みをつくる事が必要。	環境を学ぶ機会を積極的に創出し、環境問題に対する興味や関心の向上を図ります。
市民や事業者、大学などの教育研究機関と行政とのパートナーシップを築きます。	・すでにパートナーシップが構築された訳ではなく、環境保全活動センターを活用して、これからパートナーシップを構築していく必要がある。 ・大学だけではなく環境保全に積極的な事業者との連携も重要。 ・市と市民が、どれだけ本気になってセンターを盛り上げていくかが重要。	府中市環境保全活動センターを活用した市民等のパートナーシップを構築します。

【参考】
■府中市緑の基本計画での「水と緑のネットワーク」の位置づけ⇒（前段省略）「水と緑のネットワークの形成」を基本的な考え方に据え、郷土の森公園や府中基地跡地留保地内の公園などを中心とした拠点整備を進めるとともに、府中崖線や多摩川を軸とし、これらを新田川緑道や二ケ村緑道などの緑道・遊歩道、さらには、東八道路や桜通りなど街路樹のある道路などで結ぶことによって、緑の将来構造を構築することとします。
また、水と緑のネットワークの形成に際しては、生き物の生息環境を保全することを目的に、生き物の生息空間の確保とその移動経路であるコリドーの形成に配慮します。

【参考】
平成２２年６月に改定された府中市農業振興計画において、「農業振興の目的⇒５０年先にも府中市に農地・農業を残す。」と位置づけられている。